# 6-6　実践協力校における授業実践
# 事例⑥　藤沢市立御所見小学校
# ６年生　総合的な学習の時間

**ポイントになる主な学びのプロセス**

- **自分の身の周りのできごとに関心をもつ**
- **学級、学校、地域等の課題に気付く**
- **他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する**

## Ⅰ　単元計画

１．単元名　小学校第６学年　総合的な学習の時間

「学校改革制作委員会～御所見チェンジプロジェクト（G. C. P.）」

２．単元の目標

①小学校への感謝の気持ちから、学校のよりよく変えたいところを見つけ出し、全校児童や保護者の意見も集め、クラスメートとコミュニケーションを取りながら、改革案を実行に移す。

②今まで行ってきた御所見小の活動や伝統を捉え、全校児童や職員の学校生活の向上のために、新しい取り組み案を考え、活動できるよう具体的に話し合う。

３．単元の指導計画（29 時間扱い）

| | ねらい（◇）・学習内容（◆） |
|---|---|
| １～２ | ◇御所見小の活動や伝統を捉え、全校児童や職員の学校生活の向上について関心をもつ。<br>◆委員会の活動等をもとに、学校のためにこれまで行ってきたことを再認識し、６年間の中で感じている思いを出させ、学校のために自分たちが何ができるかを考える「学校改革制作委員会」を立ち上げる。 |
| ３～６ | ◇全校児童や保護者の意見を集めることで、御所見小がよりよい学校となるために、何が課題なのかをとらえる。<br>◆アンケート係、チラシ係、放送係、アンケートＢＯＸ係、G. C. P. ロゴ作成係などに分かれ、各グループで互いに情報交流しながら活動し、児童や保護者、学校の先生にアンケートを取る。 |
| ７～10 | ◇学校の課題に気付き、学校への感謝の気持ちから、卒業までに自分たちができる活動を考える。<br>◆アンケートを参考にして、自分たちで実現が可能な活動内容を考える。<br>◆グループごとに、学校改革案を考える。 |
| 11～14 | ◇他学年の児童や保護者・地域の方々に、学校改革案を表明する。<br>◆グループで考えた学校改革案をより効果的にアピールする方法を考え、発表準備を行う。 |
| 15～18 | ＊「御所見小まつり」で、改革案をグループごとにプレゼンテーションし、参観者に投票してもらう。 |
| 19<br>本時 | ◇投票結果を参考に、どの活動を進めるべきかを話し合いで決める。<br>◆投票用紙の票数だけでなく、投票用紙の意見を参考に、どの改革案にするかを個人で判断する。その際、実現可能になるためには、どうすればいいのか、誰に許可を得ればいいのか等をふまえて意見を表明し、どの学校改革案にするかクラスの総意で意思決定する。 |
| 20～27 | ◇決定した学校改革案をクラス全員で協力し実現することで、主体的に社会に参画する経験を培う。<br>◆クラス全員で役割を分担し、改革案を実行にうつす。 |
| 28～29 | ◇活動を振り返る。<br>◆活動全体の反省や振り返りを書き、自分のこれからの生活や活動に生かせることに気付く。 |

## Ⅱ　本時の様子

１．本時の目標　①投票の結果をふまえ、どの活動が誰にとって一番よいのかを考える。
②仲間の考えを聞き、自分の考えと比べながら、主体的に話し合いに参加する。

「政治的教養を育む教育」で身に付けさせたい力の視点

２．本時の展開

| 過程 | 学習活動（活動の流れ） | ポイントになる学びのプロセス |
|---|---|---|
| 導入 | **「御小まつり」で発表した内容や投票用紙の意見を振り返り、本時のめあてを確認する。**<br>**３つの学校改革案のよいところや実現が難しいところをとらえ、実現すべき活動を話し合いの中で決めよう**<br>A　校舎にカーブミラーをつける<br>B　校庭にベンチをつくる<br>C　わかりやすい校舎見取り図（案内板）をつくる<br>＊自分のいるグループ案にこだわらず、それぞれの案のよさを確認する。 | 他者の意見と自分の意見を比較し、よりよい考えはどれかを選択・判断している。 |
| 展開 | ○３つの改革案のいいところや実現が難しいところについて、話し合う。<br>＊お互いの意見を聞き合い、「よりよい案」や「合意できるポイント」等、納得できる部分を考える。<br>○実現できそうな案を一つに絞る。 | **目指す子どもの姿**<br>自分や友だちの考えのよさを感じた上で改めて自分の考えを伝えようとする姿。また、よりよい案はどれかと悩み、新しい改革案を考えている姿。 |
| ま と め | ○振り返りシートを使い、今日の活動で思ったこと、考えたことを書く。 | |

## Ⅲ　研究協議



１．自評

○児童たちは、道徳で「多数決の公平性」について事前に話し合っており、単なる数の理論で物事を決定することに違和感を持っている。児童たちが、卒業期に学校のためにできることを現実味を持って「自分のこと」としてとらえ、自分のグループの案に固執せず「よりよい案」を公正な視点で決めようという思いを持って、真剣に討議する姿があった。

○根拠を持って意見を述べることと、議論において話題をそらすことを約束事として禁じたのみで、あとは児童たちを信じて議論の行方を見守った。あえて「一つに絞る」ことにこだわらせたが、やはり一つに絞り切れなかった。また、時間の関係上、３つの案のうち、本時では一つの案に対する議論があまり活発にならなかった。

２．研究協議のテーマ

○「(児童生徒が）納得の上での合意形成」に至るまでの手立てと工夫について

３．研究協議の成果と課題

成果・「よりよい案」の条件について児童たちの話し合いで論点を絞る（本時では、決め手として「自分たちのやりがいや達成感」と、「より多くの人々にとって役に立つこと」が出てきた）ことは、児童・生徒が納得の上での合意形成に至る一つの手立てとなりうる。

課題・一つに決めることで、自分の案を否定されたと感じないために、個々の案の価値づけや認め合いを丁寧に行う必要がある。また、十分な時間の確保も必要である。

## Ⅳ　実践協力校での授業実践を基にした指導事例

# H30-2 小学校６年生　総合的な学習の時間　指導事例
# 「学校改革制作委員会」

**【単元目標】**

**①小学校への感謝の気持ちから、学校のより良く変えたいところを見つけ出し、全校児童や保護者の意見も集め、クラスメートとコミュニケーションを取りながら、改革案を実行に移す。**

**②今まで行ってきた学校内のさまざまな活動や伝統を捉え、全校児童や職員の学校生活の向上のために、新しい取り組み案を考え、活動できるよう具体的に話し合う。**

**【目指す子どもの姿】**

**・自分や友だちの考えのよさを感じた上で改めて自分の考えを伝えようとする姿。また、よりよい案はどれかと悩み、新しい改革案を考えている姿。**

### １　本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

| 学　習　活　動（全 26 時間） | ポイントになる学びのプロセス |
|---|---|
| **学習問題の決定①**<br>・学校のためになる活動を考える。<br>Ｔ：卒業式まで、あと○日だよ。<br>Ｃ：えーっ！まだまだ先のことでしょ？<br>**ポイント1**<br>**Ｔ：そうかもしれないけど、過ぎちゃえばあっという間だよ。卒業するときに、やり残したことを後悔しないようにしたいよね。**<br>Ｃ：やりたいこと……。お世話になった小学校のためになる活動がやりたい！<br>Ｃ：おもしろそう！できれば、卒業した後も残ったり、５年生が続けてくれたりする活動がいいな。<br>Ｔ：学校のためになって、みんなが卒業しても続けてもらえるような活動って、どんな活動かな？どんなことが学校のためになるか、みんなのアイデアだけじゃなくて、学校に関わる他の人にも聞いてみたらどうかな？<br>Ｃ：自分たちでも考えるけど、周りの人にアンケートを取ってみたいな。 | **○自分の身の周りのできごとに関心をもつ**<br><br>**○学校の課題に気付く** |
| **身近な人々から意見を聞き、学校の課題に対する改革案を考えよう⑧**<br>・身近な人々からアンケートを取り、自分たちが実現できそうな活動内容を考え、グループごとに学校改革案を考える。<br>**考えた学校改革案を身近な人々にアピールしよう⑥**<br>・グループで考えた学校改革案をより効果的にアピールする方法を考え、発表の準備をすすめ、発表会でプレゼンテーションを行う。 | **○他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する** |
| **身近な人々の投票結果や意見をふまえ、学校改革案を決定しよう②**<br>・クラス単位で活動できるように、改革案を一つに絞る。<br>**ポイント2**<br>**決定した学校改革案を実現させよう⑧**<br>・採用された学校改革案を、クラス全員で協力して実現させよう。<br>**活動をふりかえろう①**<br>・これまでの活動を振り返る。 | |

## 2　政治的教養を育むためのポイント

**ポイント1**

### 児童たちが主体性をもって取り組める学習課題を設定しましょう。

高学年の児童は、児童会活動や行事等で、学校の代表としての役割を担うことが多くなります。本事例では、卒業までに「お世話になった小学校のために自分たちができること」を立案し、自分たちの力で実現し、可能であれば次の世代にこの思いを引き継いでほしいという願いを核として学習が進められていきました。自分たちの育った**学校をよりよくしたいという願いは、将来の社会参画意識につながるもの**です。本事例のように、新たな活動に取り組むだけでなく、すでにある小学校のよさや伝統を高める活動に取り組む等、各学校の実態に合わせて、様々な工夫が可能です。また、活動内容によっては、特別活動としての実践も考えられます。

**ポイント2**

### 児童生徒が、主体性をもち合意形成をすすめていく手立てを工夫しましょう

合意形成には、さまざまな**「合意形成のかたち」**が存在します。

二項対立もしくは３つ以上の案から一つに絞る場合や、それぞれの案のよりよい部分を組み合わせる場合など、話し合う話題や集団によって、めざすべき「合意形成の在り方」も様々です。

本事例では、「よりよい案」の条件について児童たちが話し合いを進めていく中で、「安全性」「利用する人々」「費用」等、論点になりそうなキーワードが出てきました。**授業者は、話し合いの論点を黒板に整理して示す等、児童が議論を焦点化できるよう促すことを心がけましょう。**



また、合意形成の前提として、児童生徒が「納得している決め方」であること、また一つの案に絞り込む際には、個々の案の価値づけや認め合いを丁寧に行い、議論に十分な時間を確保することが重要です。

### 総合的な学習の時間（小学校高学年）における「政治的教養を育む教育」につながる授業展開例

C：ベンチは私たちで一から作り上げるから、困っている人の役に立つという達成感が得られると思う。

C：自分たちの達成感より、学校に関わるすべての人にとってよりよいことを優先すべきじゃない？

**T：ずっと話し合っているわけにはいかないよね。一つに絞る決め手は何ですか？**

C：うーん……。全然まとまらなくて……。どうすればいいか……。

**T：じゃあ、何を大切にして決めていくべきと思うか、考えてごらん。**

**＊個人で考え、ノートに記入する時間を取る。**

C：『安全性』を大切だと思う。学校生活を安全に送るための活動がしたい。

C：『便利さ』が大切だと思う。災害時でも役に立つような物を作りたい。

T：このうち、どちらを大切にして決めていくことにしますか？

（後略）

**ポイント2**

授業者は、改革案の優劣を決めるのではなく**「何を大切にして決めていくのか」を児童に問い直すことで、議論を焦点化**し児童たちに決定権をゆだねています。